

妖怪たちが問い掛ける

ブロンズ像石こう原型を展示 あすから、日南

森林王国「にちなん」から妖怪像が「豊かな森林とは」と問い掛ける。日南町霞の町総合文化センター内の町美術館で5日から、境港市の水木しげるロードに並ぶ妖怪ブロンズ像の原型（石こう）が展示される。豊かな森林にこそ妖怪がすむという水木さんの持論にちなんで、初日は講演会も交えて森林の大切さをアピール

まで（月曜・祝日休館）。また、5日には同NPO法人と鳥取県緑の産業再生プロジェクト協議会日野川流域部会が同センター多目的ホールで「森づくり講演会」を開催。県産業技術センター理事長の稲永忍氏が「乾燥地研究から見た森林」、千年王国の黒目友則氏が「妖怪の森構想」をテーマに講演する。

問い合わせは電話0859（83）0211、フォレストアカデミージャパンへ。

豊かな森林とは

「この森が、はるか彼の方の米子の水道の蛇口へとほとぼしる、美味しい水が見えませんか」。米子市が1999年に日南町新屋で取得した水源かん養林の入り口には、そう記された看板が立っている◆境港市が同町阿栗^{アサ}で森を購入したのはさらに早い1981年。当初の7年間は市内全小学校の児童がスギやヒノキを植え、以後は市が毎年校打ちや間伐に励んで、両市の取り組みは日野川源流の水の恵みへの感謝を表す◆森は保水、水の流量調整や浄化といった機能を併せ持つ。昨年10月には同町にNPO「フォレストアカデミージャパン」が発足した。森の役割を内外に発信し、林業振興にも寄与しようと精力的に活動している◆その一環で5日から、境港市の水木しげるロードの妖怪像の原型（石こう）約10体を日南町美術館に展示する。妖怪は自然豊かな森にすむという水木さんの持論にちなんだ試み。「《水》が豊かで《木》が《しげる》」とは主催者。互いに育め合う森と水の関係もアピールしたい◆私たちはおいしい水、産業に欠かせない水の源をつい忘れてしまいがちだ。官と民、源流域と下流域が手を携えて、もう一度森の尊さに触れる機会をつくってきたい。こころは国際森林年である。

海潮音